

2021年3月25日

トヨタ紡織株式会社

## トヨタ紡織、CDPの調査で最高評価を獲得 ～「サプライヤー・エンゲージメント評価」で「リーダーボード」に選出～

トヨタ紡織株式会社（本社：愛知県刈谷市、取締役社長：沼 毅）は、CDP<sup>※1</sup>が実施する企業調査である2020年「サプライヤー・エンゲージメント評価」において、最高評価の「A」を獲得し、「リーダーボード」に初めて選出されました。

この評価は、気候変動に対する企業の取り組みを「ガバナンス」「目標」「スコープ3管理<sup>※2</sup>」「サプライヤーとの協働」の4項目から調査し、格付けするものです。今年は約5,800社の企業が評価対象となり、396社（日本では当社を含む83社）が「リーダーボード」に認定されました。

これは、当社グループのサプライチェーン全体における温室効果ガス排出量の削減活動が評価されたものです。



当社は、2050年環境ビジョン「すべてのステークホルダーの皆様と一致団結して、子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な地球環境を目指します。」を掲げ、CO2排出ゼロをはじめ6つの環境チャレンジ目標の達成に向け、活動を進めています。今後も、サプライチェーン全体で脱炭素社会を実現し、持続可能な地球環境を目指しチャレンジしていきます。

トヨタ紡織グループの環境活動の詳細は当社ホームページをご覧ください。

[\(https://www.toyota-boshoku.com/jp/csr/environment/\)](https://www.toyota-boshoku.com/jp/csr/environment/)

※1: CDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）は2000年に英国で設立したNGOであり、投資家、企業、都市、国家、地域が自らの環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営。

※2: 企業の事業活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量において、企業自らによる直接排出（スコープ1）と他社から供給された電気、熱などの使用に伴う間接排出（スコープ2）を除いた、間接的な排出量。原材料調達、輸送・配送、廃棄といった企業活動の上流と下流から発生。